

第3回 福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会 会議録

日 時	令和7年10月14日（火）16：30～17：20
場 所	上下水道局庁舎 301会議室
出席者	<委員> 南保委員長、高島委員、田村委員、林委員、前川委員 <上下水道局> 坂下経営部長、南京事業部長、箕手経営部次長、南事業部次長 経営管理課（吉田課長、塚本副課長、辻課長補佐、 野田主幹、中川主幹、白崎副主幹、中村副主幹） 上下水道サービス課（塚本課長） 下水管路課（大島課長） 下水施設課（松井課長）
会議録	
※ 第2回審議委員会の補足 ・参考資料：ウォーターPPP導入事例説明資料 ～事務局より説明後、以下質疑応答～	
委員	宮城県の事例のように、上下水道フルで委託することでコスト削減は見込めそうだが、水道管や下水管が破裂した際の対応等はどうなるのか。
事務局	宮城県の詳細までは把握していないが、一般的には民間事業者に緊急時の対応も含めて委託するケースが多いと考える。 ただし、民間事業者に任せる内容については事業ごとに柔軟な設計ができるので、市民の方々の意見も踏まえながら、福井市におけるウォーターPPPの導入形態を検討していく必要があると考えている。
委員	平成30年から開始したウォーターPPPだが、現在までに全国で9事業体しか実施していない状況であり、信頼度はどうなのか。
事務局	国がウォーターPPPの推進を打ち出したのは最近で、人口減少や老朽化などの課題が顕在化してきたタイミングでもあり、現在多くの自治体が検討段階に入っている。 国は「水道で100件、下水道で100件」の導入を目標として掲げており、今後5年、10年間で導入数が大きく増える見込みである。
事務局	国は、汚水管の改築に係る国費支援について、ウォーターPPPの導入決定を令和9年度以降の交付要件として打ち出しているた

委員	め、他自治体も急ピッチで検討を進めている。本市においても、今年度から2か年かけて導入可能性調査を実施しており、令和11年度の導入を目指している。 基礎自治体の財政や人材の問題を考えると、民間の力を取り入れていくのは自然の流れだとは思う。あと数年すれば事業のあるべき姿も徐々に見えてくると思われるので、今後も引き続き検討を進めていただきたい。
1 議題1 経営戦略の素案について ～事務局より説明後、以下質疑応答～	
委員	前回も指摘したが、この最終的な投資財政計画の表を見た際に、一般会計繰入金のうち基準外（経営補助）の金額が、令和10年度には2億5000万円から10億円に約4倍に増加している点が気になる。 32ページの収益的収支を見ると、「計画期間中は、概ね黒字で推移している」とされているので、基準外の経営補助金の有無が明確でない中で、誤解を招く可能性がある。 38ページの投資・財政計画の表には、一般会計からの経営補助がない場合は令和8年度に赤字となり、その後赤字額が拡大していく見込みであることが示されていない。「概ね黒字」という表現の前提には、経営補助が令和10年度から大幅に増額されていることで黒字が保たれている点をもっと強調した方がいい。矛盾していることを同列に言っているので、印象が薄まっている気がする。
委員	できるだけファジーな表現はやめた方がいいと思うがどうか。
事務局	ご指摘のとおり、矛盾しているように見えるのは、経営が将来にわたり安定的に継続することを前提とした計画であるため、赤字になる見せ方はできないということがある。 38ページの一覧表で、一般会計繰入金について「基準内」と「経営補助」を区分して記載している。
委員	37ページの収益的収支では、一般会計繰入金を2つに分けて、基準外繰入金は、安定した事業継続に必要な資金を維持するために必要な額で、これがつまり赤字の補填という説明になると思う。そこまで理解していただけるなら良いのではないかと思う。

事務局	文章の表現について検討させていただきたい。
委員	文言の修正は、委員長と事務局で協議の上、最終的に委員長一任という形でご了承いただきたい。 (全委員 了承)
委員	経営戦略素案については、全体的にわかりやすくまとめようという努力が感じられた。 20 ページのストックマネジメント計画について、健全度の推移という表現があるが、「推移」という表現だと将来の健全度が確定しているような印象を受けるので、「見通し」という表現にしてはどうか。また、健全度の 50 年後・100 年後の推測は、どのように算定しているのか。
事務局	健全度の推移と記載している箇所については、「見通し」という表現がより伝わりやすいので表記を修正したい。 健全度の算定根拠としては、国が全国の下水道施設を対象に推定した老朽化の進行状況に関するデータが存在するので、このデータを本市の施設に当てはめて、将来の健全度を予測している。 さらに、今後は定期的な点検・調査結果を健全度の予測に反映させることで、より精度の高い見通しとしていく予定である。
2 議題2 パブリック・コメントの実施について ～質疑なし～	